

2020年度 けやの森学園・けやの森保育園 自己評価

本年度の園の運営・保育・教育全般を総合的に評価し、次年度の運営に活かせるように率直に記入してください。

- 【記入方法】 ・A、B、C、Dの4段階で評価してください。
 ・項目ごとに意見や改善策があれば記入してください。

A: 大変よくできている
 B: できている
 C: 一部改善を要する
 D: 努力が必要である

名前: _____

項目	内容	評価	意見・改善点
理念	独自の教育理念・教育方針・保育目標が明確に掲げられているか。	100%	・環境整備部署や派遣社員にも理解してもらう必要はある。
	園の理念を共有し、職員はその理念に基づいて各業務にあたっているか。	50%	
保育内容	理念や方針、目標に照らして独自の保育内容が考えられているか。	100%	・保育内容、独自のカリキュラムは充実している。 ・年々変化していく様子に、保育者自身の理解と工夫が追いついていない気がする。 ・今年度はコロナ禍にありながら工夫を重ね、本園らしい生活、行事を実施することができた。引き続き次年度も新たな生活への転換を図る。
	その年々の子供の様子や傾向、社会情勢等を考慮して保育内容や行事が設定、工夫されているか。	90%	
	子供の様子や興味、関心に即した活動を用意し、その意欲を高めているか。また、連続性をもって保育が組み立てられているか。	60%	
	同年齢集団、異年齢集団の良さを活かし、成長や課題に応じた保育形態がとられているか。	70%	
	子供と保育者、両者の思いが反映された生活、保育展開になっているか。	80%	
	現状を加味した企画により、実践したプログラムが子供の利益に繋がったか。	70%	
	時に子供も含めて皆で討議し、企画しているか。園長や担当保育士の独断で偏った内容になってはいないか。	80%	
	園や職員の振り返りや反省、保護者や外部の評価、ご意見を保育内容や次の活動に反映させているか。また、公表する機会を設けているか。	60%	
運営・組織・職員	子供、保護者、職員の人権が尊重されているか。	60%	・部門間、学童クラブや自然塾との連携もスムーズにしたい。 ・行事は早い段階で打ち合わせを始め、途中経過を奉公し合う。 ・業者等の外部者が職員室に入る時には特に注意する。
	何かを決断する時、子供を主体に、子供の利益を優先しているか。	80%	
	能率的、合理的な運営組織になっているか。	70%	
	職員は自身の社会的役割を理解し、教育者や子供に関わる社会人としての品格をもって誠実に職務にあたっているか。	50%	
	事業全体の動きや現状を周知し、課題を出し合って、全職員で共通理解を図る機会を設けているか。	40% 50%	
	子供一人ひとりの成長段階や必要な情報を共有し、職員が協力する保育体制ができているか。	60%	
	会議や打ち合わせの回数、時間、内容は適切か。	40% 50%	
	園児、保護者、職員の個人情報管理は適切か。	40% 50%	
	現実の状態を受け入れながら、目的に向かってアイデアを出すことができたか。	70%	
	それぞれの役割をもって、職員自身が楽しく働いているか。	50%	

研修・教材研究	独自の教育方針を体現するための園内研修を行っているか。	70%		・表現指導の鴨志田先生の参画によって、身体表現の幅が広がり、マンネリから抜け出すことができた。子どもだけでなく職員も活動を楽しめるようになった。		
	教材研究、事前準備を整えてから子供達におろしているか。		70%			
	理科的・科学的分野や造形、音楽、身体表現等の特化した専門性が必要な領域は専門家を招いて本物に触れる機会を設けているか。 また、その指導を日常や行事に活かせるようにし、保育者が視野を広げ楽しく保育ができる循環になっているか。	90%				
	経験や立場によって必要な外部研修を受け、研鑽に努めているか。		40%		40%	
保護者との連携	保育者は子供一人ひとりの現状や思いを正確に理解しようと努め、望む成長や期待、課題等を子供と保護者とも共有して相互理解を図っているか。	50%		・特に保育園は家庭環境や保護者の状態を考慮すると、こちらの思いを伝えきれないこともあった。子供のためという使命感との狭間で苦しいこともあった。		
	園の方針や決定に対して保護者が質疑、意見する機会が設けられているか。	70%				
	常に子供を中心に据えて、問題や困難に対しても、意見を交換し、協力して解決する関係を築けているか。	70%				
	日々の子供の姿やの活動の様子をお便りや映像、懇談会や参観、送迎時の会話等で伝え、家庭と情報交換を行っているか。	70%				
	参加型の参観や行事などを通して園の保育への理解を深めて頂けるよう工夫しているか。	80%				
	必要に応じて児童相談所や地域療育センター等を仲介して子育て支援や発達支援を行っているか。	70%				
開かれた保育園づくり	自園の教育環境を有効に活用し、他園や地域社会と交流しているか。(園庭開放・公開保育・他園との交流)	60%		・年長児の学校訪問、給食体験が出来ていない。何か新たな交流の形はないか。校内見学だけでも行えないか。 ・今年度は休園中や保護者参加を見送った行事等で動画配信が有効であった。		
	未就園児やその保護者、在園児保護者が楽しく集える場所を提供しているか。	80%				
	地域の方に園を知って頂き、子供達が安心して過ごせる社会づくりに貢献しているか。	60%				
	地域の行事に参加し、近隣住民と交流を図りながら地域の文化や生活に触れているか。	40%			40%	
	小学校の見学や参観等を通じて幼保小連携が図れているか。		50%		40%	
	園の教育活動の様子や園児の姿など、情報をSNS等を活用し、積極的に発信しているか。	90%				
	園児の姿や保護者の意見を使用する(情報公開)承諾は得ているか。	80%				
保健・衛生・安全	四季に応じた自然な環境整備を行っているか。	90%		・破損しているものはすぐに直すか撤去すること。		
	子供達が気持ちよく過ごせるよう、衛生的な環境を保っているか。	80%				
	施設設備、遊具等は定期的に点検し事故防止に努めているか。	40%			50%	40%
	避難訓練は様々な想定で行い、その都度それぞれの職員の役割と必要事項を確認し、子供達ともいざというときにどうすればよいかを話し合っているか。	70%				
	危険を全て取り除くのではなく、子供の心身の健全な育ちを保障するため、子供達と安全に遊ぶ方法を考えて過ごしているか。 また、安全管理に対する園の方針を説明し、保護者の理解を得ているか。	90%				

《 次年度への課題 》

- ・コロナ禍で得た気付きや可能性から、職員は持続可能な社会への意識をもち、新たな保育の形を示していく。
- ・個々の課題や興味にあった外部研修を受け、保育に活かしていく。
- ・学童クラブや自然塾の予定や職員の動きも共有し、互いに助け合える体制を作る。

